

参加
無料

学校×地域で考える

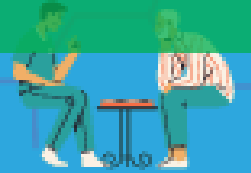
福祉

— 介護の現場最前線 —

生産性向上と介護のテクノロジー

介護の現場の

ミライの福祉を「見て」「学んで」「触れて」



出入
自由

令和8年(2026年)

3月7日(土)

未来すまいる研究所
by Share Support Corp.

・私と  の紹介

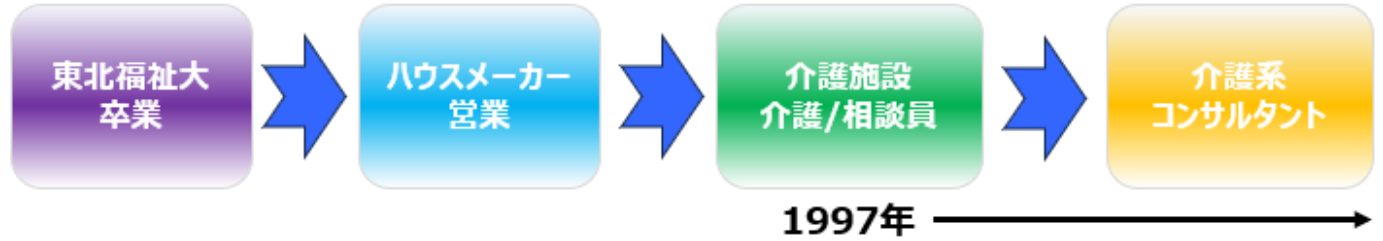
・“いま”起こっていること“これから”起こること

・生産性向上と介護のテクノロジー

・最後に



■大内 英之 57歳／飯能市在住／宮城県生



運営会社：株式会社シェアサポート（2008年設立）
介護事業のコンサルティング業務

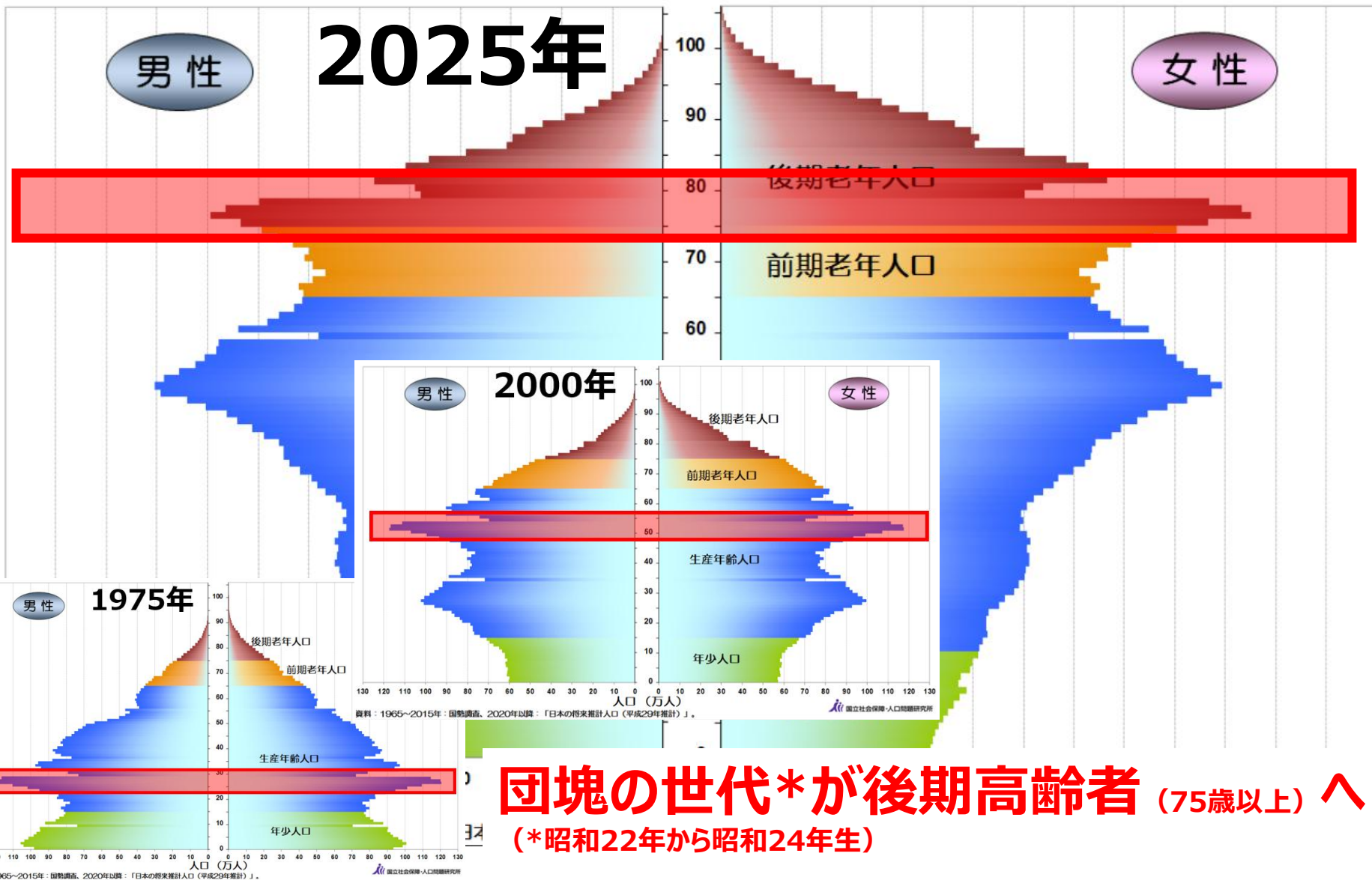
- ◎ 埼玉県社会福祉協議会 介護のみらいサポートセンター アドバイザー
- ◎ 厚労省ニーズ・シーズマッチング事業
マッチングサポーター
- ◎ 介護系アプリケーションの開発支援
- ◎ 各種講演会・セミナーの講師
 - ・介護現場の生産性向上
 - ・介護保険制度、施策動向
 - ・経営層／介護職員向けセミナー

台湾国際介護機器展示会
招待講演
(2025)



・“いま”起こっていること“これから”起こること

■ “いま”起きていること (2025問題)



団塊の世代*が後期高齢者 (75歳以上) へ
 (*昭和22年から昭和24年生)

■ “いま”起きていること（2025問題）

高齢者人口が増える （＝介護を必要とする高齢者も増える）

【参考】

2015年から2025年の間に『75歳以上人口』が増えた都道府県TOP3



■ “いま”起きていること（人材確保）



<求人倍率 4.19>

・1人の求職者に4件の求人が...



<R7年度 介護福祉士養成校入学者>

・日本人より外国人の入学者が上回る

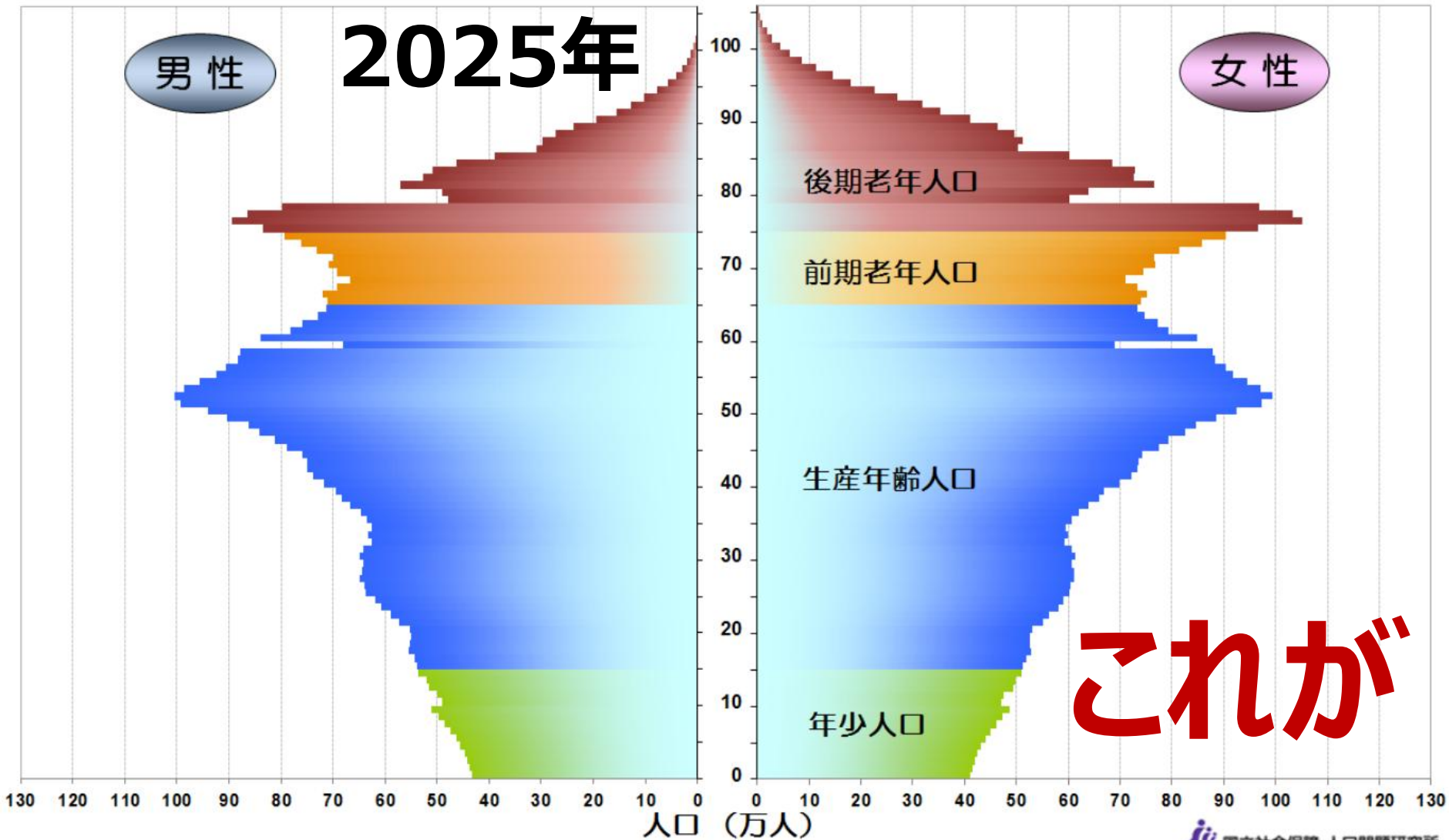
総数：7,356人⇒日本人3,282人、外国人4,074人



<外国人介護士へのアプローチ>

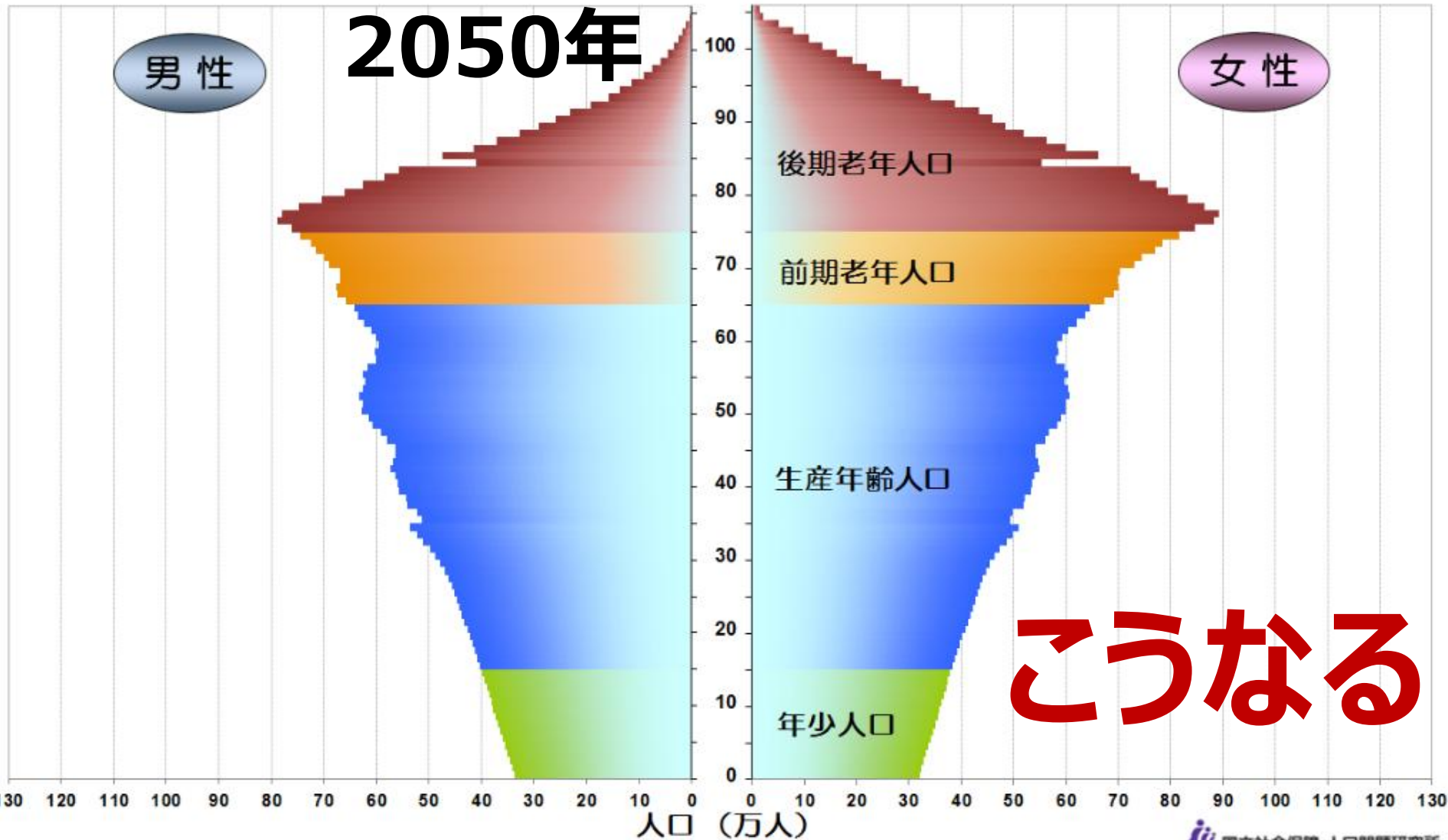
・日本だけじゃない、韓国、台湾でも

■ “これから”起こること



資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口（平成29年推計）」（出生中位(死亡中位)推計）。

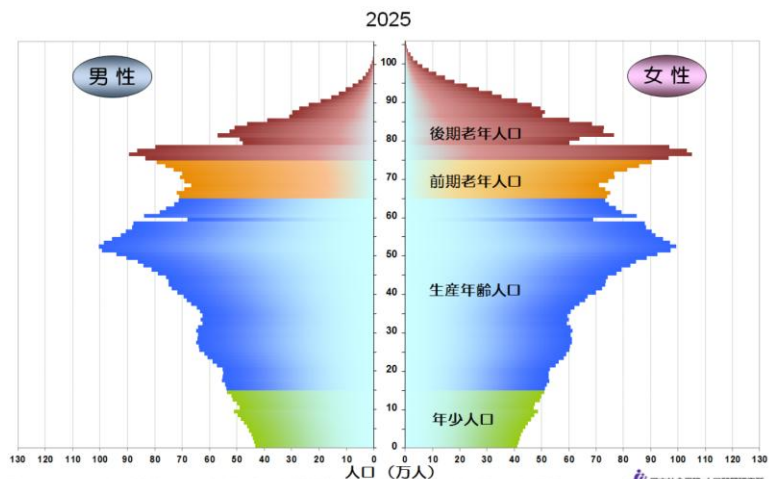
■ “これから”起こること



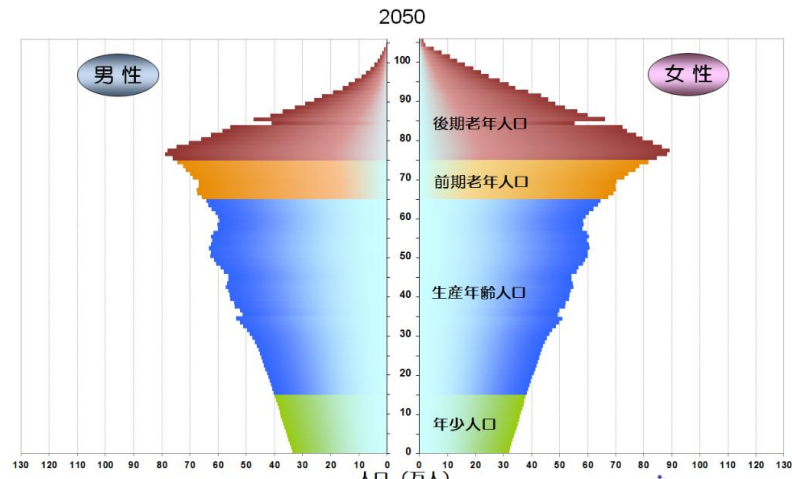
資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口（平成29年推計）」（出生中位(死亡中位)推計）。

■ “これから”起こること

2025年



2050年



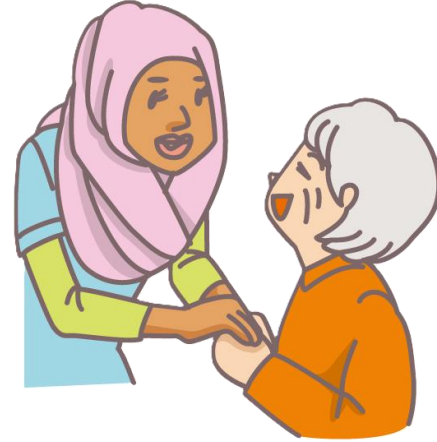
- ・総人口が減少する。（25年間で東京都+埼玉県人口）
- ・高齢者人口が増加する。
- ・生産年齢人口（働き手）が減少する。

介護業界においては需要は増えるが供給が・・・

■ “いま”と“これから”を見据えた施策



介護職員の処遇改善



外国人介護士の育成支援



介護現場の生産性向上










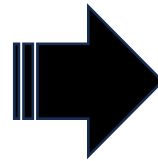
経営の協働化・大規模化

・生産性向上と介護のテクノロジー

■ 介護現場の生産性向上とは

介護業務の一部

 お話をする	 励ます	 ケースカンファレンスを行う
 移乗介助	 入浴介助	 排泄介助
 食事介助	 服薬介助	 通院介助
 水分づくり	 配下膳	 掃除



【置換え】
手荷物を沢山持っている状態

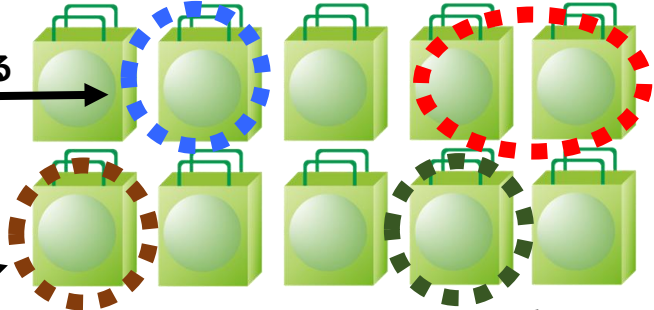
■ 介護現場の生産性向上とは



手荷物の中身を見直す



機械を使うと楽になる



同じ内容記入してる



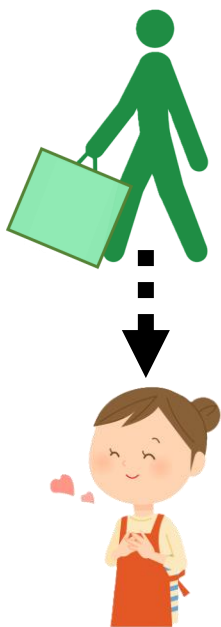
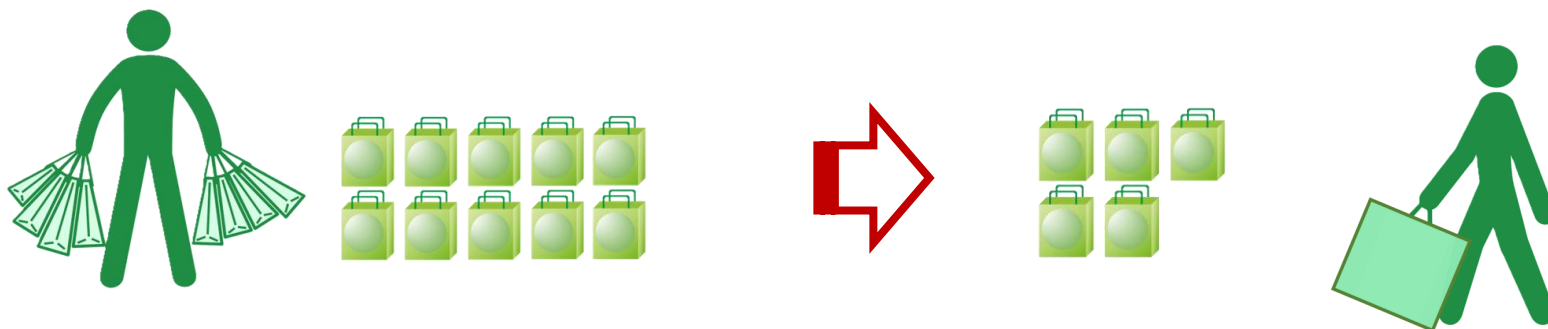
昔からのルールで







二人で同じことをしている




■ 介護現場の生産性向上とは



余裕が
うまれる

	
お話をする	励ます・支える
	
ケースカンファレンスをする	ヘルプを行う

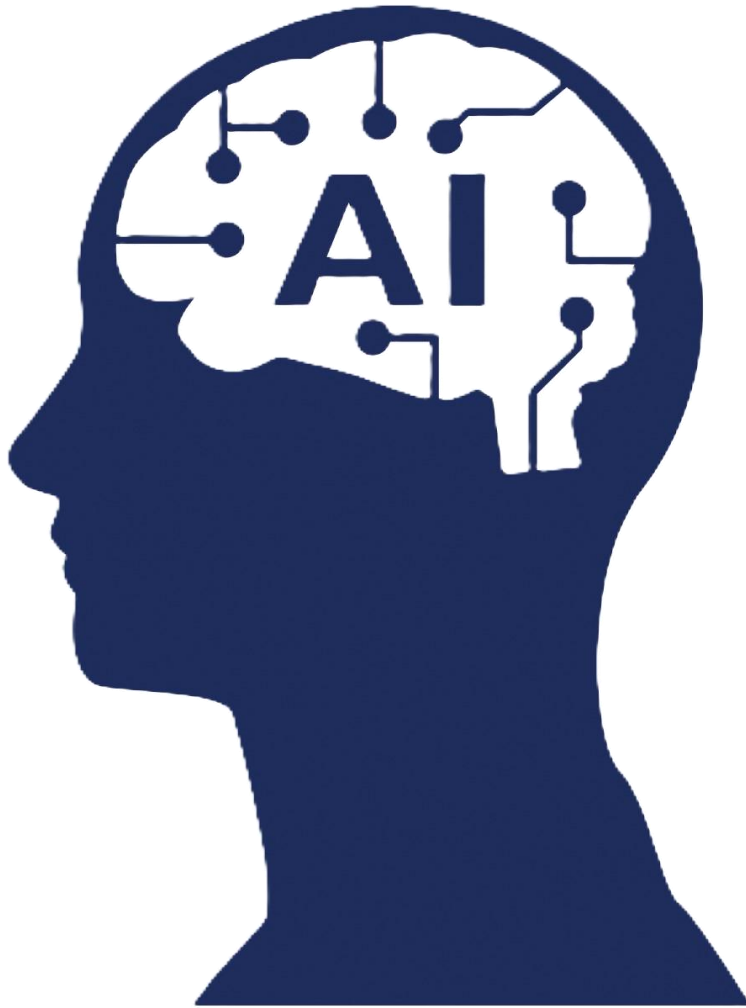


介護現場の生産性向上 = 利用者さまの満足度が向上する
高品質な介護サービスを提供すること

■ 介護のテクノロジーとは（新ロボット技術の介護利用における重点分野）

<p>移乗支援（装着） 介助者のパワーアシストを行う装着型の機器</p> 	<p>排泄支援（排泄物処理） 排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ</p> 	<p>排泄支援（排泄予測・検知） 排泄を予測又は検知し、排泄タイミングの把握やトイレへの誘導を支援する機器</p> 	<p>介護業務支援 介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等への介護サービス提供に関わる業務に活用することを可能とする機器・システム</p> 
<p>移乗支援（非装着） 介助者による移乗動作のアシストを行う非装着型機器</p> 	<p>排泄支援（動作支援） ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器</p> 	<p>見守り（施設） 介護施設において使用する各種センサーや外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム</p> 	<p>機能訓練支援 介護職等が行う身体機能や生活機能の訓練における各業務（アセスメント・計画作成・訓練実施）を支援する機器・システム</p> 
<p>移動支援（屋外） 高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器</p> 	<p>移動支援（装着） 高齢者等の外出等をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器</p> 	<p>見守り（在宅） 在宅において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム</p> 	<p>食事・栄養管理支援 高齢者等の食事・栄養管理に関する周辺業務を支援する機器・システム</p> 
<p>移動支援（屋内） 高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器</p> 	<p>入浴支援 入浴におけるケアや動作を支援する機器</p> 	<p>コミュニケーション 高齢者等のコミュニケーションを支援する機器</p> 	<p>認知症生活支援・認知症ケア支援 認知機能が低下した高齢者等の自立した日常生活または個別ケアを支援する機器・システム</p> 

■ 最近の潮流



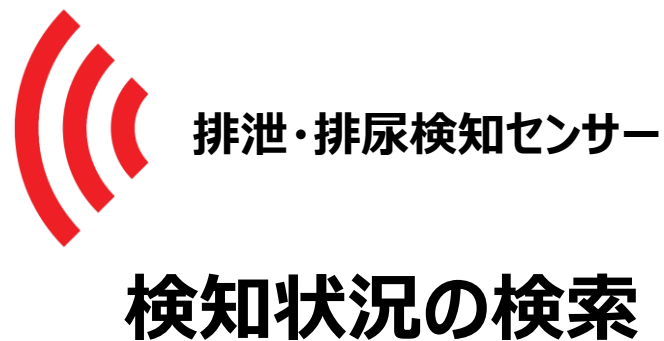
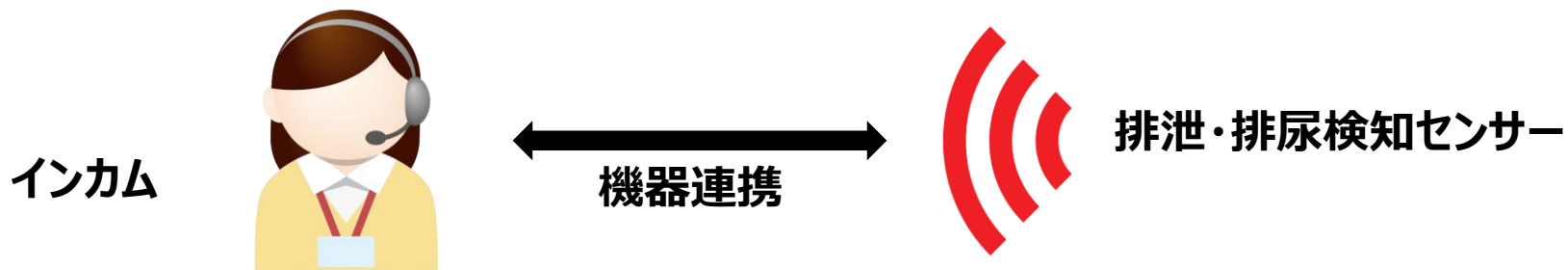
ケアプラン作成

議事録・文書
作成

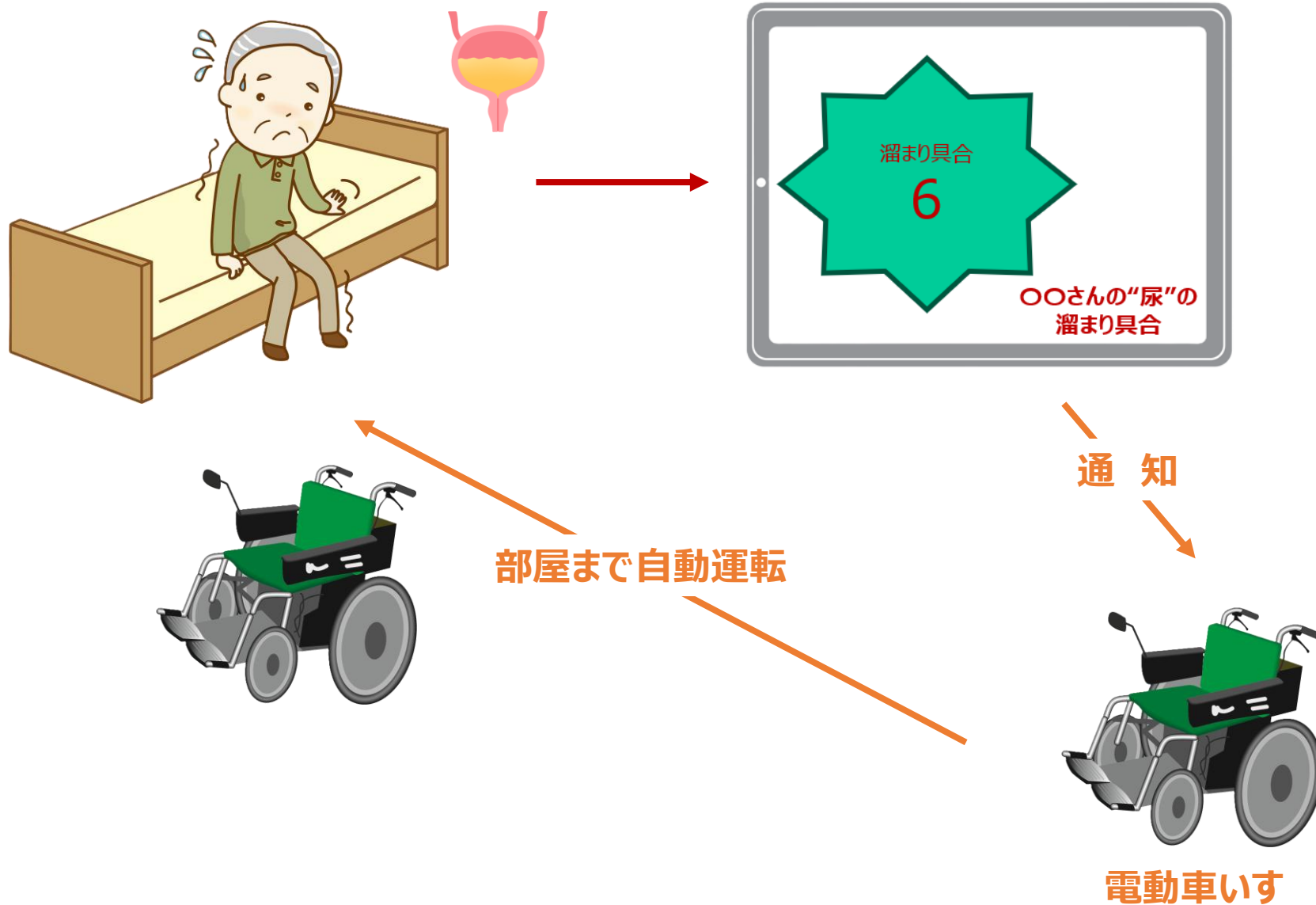
シフト作成

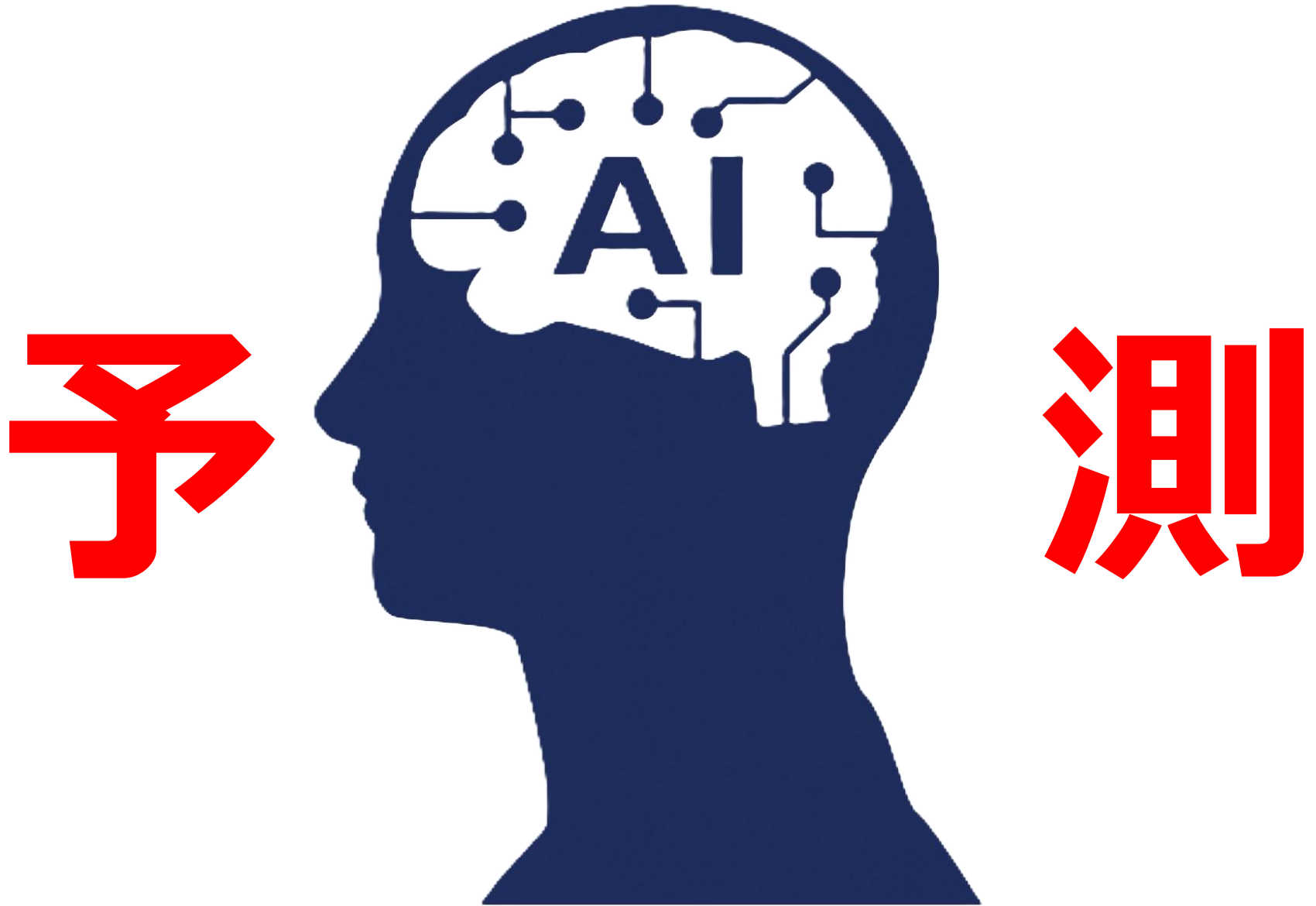
機能訓練
メニュー

■ 機器連携による可能性




■ 開発中の仕組み






■“AI”が可能にすること



排泄・排尿検知センサー

検知履歴からの予測

The text block features a red signal icon on the left, followed by the text "排泄・排尿検知センサー" (Excretion/Urination Detection Sensor). Below this is the main heading "検知履歴からの予測" (Prediction from Detection History).



そろそろ
〇〇さんと
■■さんのトイレ
誘導して下さい。

An orange speech bubble containing the text: "そろそろ 〇〇さんと ■■さんのトイレ 誘導して下さい。" (Please guide to the toilet for 〇〇-san and ■■-san soon).

■ “AI”利用における留意点

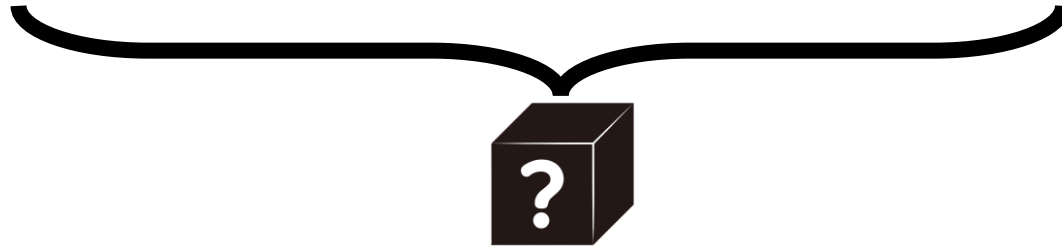


違和感ないですか？

= 留意点



Answer

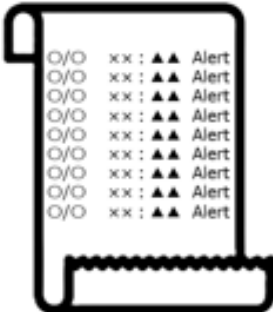




**どのような情報やデータから答えを導いたのか
“過程”がみえない**

■ AIを使いこなす上での基本的な考え方



自分達が主体である

 <p>O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert O/O xx : ▲▲ Alert</p>		 <p>目次</p> <table border="1"><tr><td>1. 序言</td><td>1</td></tr><tr><td>2. 目的</td><td>2</td></tr><tr><td>3. 対象</td><td>3</td></tr><tr><td>4. 用語</td><td>4</td></tr><tr><td>5. 参考文献</td><td>5</td></tr></table>	1. 序言	1	2. 目的	2	3. 対象	3	4. 用語	4	5. 参考文献	5
1. 序言	1											
2. 目的	2											
3. 対象	3											
4. 用語	4											
5. 参考文献	5											
<p>履 歴</p>	<p>A I</p>	<p>文書作成</p>										

特性を理解して使いこなす

・最後に

・人口動態で示したとおり少子高齢化社会と総人口が減少する時代が訪れます。

・そのような時代のなかでも高品質な介護サービスが提供できるように、現場は生産性向上と職場環境の改善を継続していきます。

・デジタル化が介護現場にも浸透し、業務手順や役割が明確で就業環境が整った事業者も増えてくると思います。

- ・国は「介護テクノロジー」を世界へ輸出する産業にしたいと考えています。
- ・日本は世界で一番高齢化社会が進展している国です。
- ・私たちの日常の振る舞いは「最高のサービス」として評価されています。

ご清聴ありがとうございました